

宗教性にやどる「文学の力」を求めて
——ドストエフスキー、ジッド、サン＝テグジュペリ、カミュ——

目次

第一章 『幸福な死』と『罪と罰』…………… 1

- 1 『幸福な死』における、『罪と罰』の影響 1
- 2 『幸福な死』の世界 2
- 3 『シーシュポスの神話』におけるドストエフスキー 10
- 4 『幸福な死』と『罪と罰』 14
- 5 意識された死 24

第二章 『白痴』管見——その宗教性を探りつつ…………… 27

- 1 「完全に美しい人間」を描いたのか 27
- 2 ムイシユキン公爵とは 28
- 3 悲劇的な結末 31
- 4 闇に射す微かな光 35
- 5 『白痴』の宗教性 40
- 6 ムイシユキン公爵とキリスト 43

第三章 『異邦人』と『白痴』——死刑囚意識をめぐって…………… 47

- 1 『異邦人』と『白痴』の共通性 47

- 2 『異邦人』における死刑囚意識 48
- 3 『白痴』における死刑囚意識 51
- 4 死刑囚意識を通して見る、『異邦人』と『白痴』 56
- 5 ムルソーとマイシユキン公爵 60
- 6 マイシユキン公爵と黙示録 64

第四章

カミュとドストエフスキー——『悪霊』をめぐる——

.....

- 1 ドストエフスキーの小説『悪霊』の戯曲化 67
- 2 カミュは『悪霊』をどのように戯曲化したのか 68
- 3 カミュのドストエフスキー観 74
- 4 『転落』における、ドストエフスキーの影響 80
- 5 クラマンズとスタヴローギン 91

第五章 『未成年』の世界

——『地下室の手記』と『カラマーゾフの兄弟』の狭間で——

.....

- 1 『未成年』の分かり難さ 93
- 2 「偶然の家庭」の作品 95
- 3 『地下室の手記』から『未成年』へ 97

- 4 善良な人間になりたくてもなれない人たち 99
- 5 未成年アルカージイと老人マカール 105
- 6 『未成年』から『カラマーゾフの兄弟』へ 110

第六章 『ベスト』と『カラマーゾフの兄弟』

- 1 リウーはイワンのように語る 113
- 2 『ベスト』における、無神論と有神論 114
- 3 『カラマーゾフの兄弟』における、神の領域と悪魔の領域 121
- 4 『ベスト』と『カラマーゾフの兄弟』 130
- 5 カミュの文学とドストエフスキの文学 133

第七章 ドストエフスキはシベリア体験で何を得たのか

- 『死の家の記録』を中心に——
- 1 シベリア体験以前のドストエフスキ 135
 - 2 『死の家の記録』——シベリアで何を得たのか 135
 - 3 『伯父様の夢』、『ステパンチコヴォ村とその住人』、『虐げられた人びと』 144
 - 4 『冬に記す夏の印象』と『地下室の手記』 152
 - 5 五大長編と空想的社会主義信奉及びシベリア体験 154

6 空想的社会主義信奉とシベリア体験から 160

第八章

〈キリスト教文学の可能性——価値体系の境界を越えて〉
ジッド、サンIIテグジュペリ、カミュ——アフリカ体験を中心に…………… 165

- 1 越境の作家たち 165
- 2 ジッドとアフリカ 166
- 3 サンIIテグジュペリとアフリカ 169
- 4 カミュとアフリカ 190
- 5 辺境の地に生きること 201

引用文献・主要参考文献…………… 205

あとがき…………… 209